

令和7年度第2回千曲市歴史的風致維持向上協議会会議録概要

- 開催日時 令和7年10月14日(火) 午後1時30分～午後3時40分
- 開催場所 千曲市役所 5階 第一委員会室
- 出席者 委員:11名 ※欠席者2名
事務局:6名(都市計画課長、同課計画係長、同課計画係員2名、
歴史文化財センター所長、同センター主幹)
傍聴者:1名

1 開会

都市計画課長

2 会長あいさつ

3 会議事項

(1)千曲市歴史的風致維持向上計画(第1期)最終評価シートについて

- 事務局より説明
[質疑応答]
- | | |
|---------|---|
| 委員(意見) | 8ページの日本遺産について、棚田に立ち寄る観光客は増加した一方で、そのほかの構成文化財については、回遊性があまりないということで、9ページの松田館の博物館がオープンしたことについて、ここは日本遺産の構成生文化財になっているが、利用者の動向はどうか。 |
| 事務局(回答) | 松田邸の利用状況については、令和5年の3月に開館し、令和5年度の入館者は約1,700名であった。令和6年度は大分落ち着き700名前後となり、古文書の博物館なのでリピーターが中々確保できないというのが課題。その後、松田邸で七夕の飾りや企画展等の開催を順次進め、今年度の入館者は回復傾向にあるため、今後も松田邸の入館者の増加を図ること、棚田の他、稻荷山の重伝建など周囲に日本遺産の構成文化財がたくさんあるので、回遊性を高めた取組を進めていきたい。 |
| 委員(意見) | 回遊性といえば、更級にお店があるので温泉泊まったく観光客がお店に寄つてもらったときは棚田を回って、姨捨の駅を見て稻荷山の方に回つてもらうのが案内としてはいいと思うが、道が狭いのがネックで勧めにくい。
後は循環バスが走っているが、普段昼間はほとんど人が乗っていない。朝や夕方は通学で使う学生が多いが、それ以外はすごくもったいないと思う。それを歴史のあるところを回れるような、外から来たお客様を案内できるバスがあればいい。 |

- 委 員(意見)
事務局(回答)
- 松田家周辺の街並み整備についてはどういう風に進めていくのか。
八幡地区の街並み整備については、現在松田邸の周辺で道路の美装化を今年度まで実施している。令和8年度以降については、八幡地区については一端終了し、新たな事業計画は現在予定されてはいない。
- 委 員(意見)
- 構成文化財の回遊性の拡大が必要な個所が何箇所もあり、宝の持ち腐れになっている。周遊する拠点について、どのような活用方法があるのかも一度考えていく必要がある。旧高村邸の写真があるが、今は塀だけだが、以前に市の方に寄贈するという話があったが、市の方で断ったという風に聞いている。一帯を計画地域として守ることができたのではと思う。
- 委 員(意見)
- 回遊性のアピール、日本遺産の構成文化財の広報活動はどのように行っているか。観光課が中心なのか、日本遺産、都市計画課、文化課なのか。
- 委 員(回答)
- 日本遺産の構成文化財の紹介は観光課で対応をしている。去年までは日本遺産推進室という部署が独立してあったが、今年度から編成替えになり、ホームページなどで紹介しているが、29ある構成文化財全てが上手にPRされているかという点では、反省すべきところはある。
- 自転車で回っていただく方法なども考えているが、それもうまくいっていないところで、さらに工夫が必要と思っている。
- 委 員(意見)
- 先ほど循環バスの問題も出たが、自転車の利用も観光の方法としては各地で活用されている。
- 委 員(意見)
- 地域に住んでいる人たちが文化的なものを宝として大切にしていく気持ちの醸成も必要である。地域住民が地域を大切にしていく教育をしていく必要がある。
- 委 員(意見)
- 昔は教育活動、社会教育の学校教育との連携という話も出ていた。学校教育との連携についてはどうか。
- 事務局(回答)
- 学校教育の連携については、市内の中学校の総合的な学習の時間等で出前授業の形で歴史文化財センターの職員が年に何回か出かけている。今年度は更埴西中学校で棚田の学習、それから屋代高校附属中学校に稻荷山の重伝建の授業を行っている。昨年は埴生中学校の生徒を棚田のペットボタルのライトアップイベントの関係で、棚田の案内をするという取組を行った。
- 委 員(意見)
- 松田家斎館について、12ページ大頭祭の出立達式写真をあえて古い写真を使っており、9ページの方で伝統行事の継承と書かれているが、新しく建て替えたことで伝統行事などは今までやっていたことを同じようにやっているのか。
- 事務局(回答)
- 松田家斎館の修理の関係は、平成29年に火災が起き、ほぼ全焼に近い状況になった。平成30年に焼け残った部材を極力再利用して、現在の姿に修理を行っている。伝統行事の形状に関しては、令和2年から令和3、4年にかけてコロナが大流行し、大頭祭も規模を縮小する形となり、一昨年あたり

	から徐々に従来の形態に戻しつつあるのが現状。今年度も大頭祭が12月に行われるが、コロナ禍前の状態に完全に戻すところまではいっていないが、修理ができたことでコロナ禍前の状況に近づきつつあるという状況。
委 員(意見)	7ページの波及効果別シートの市民意識の向上が続いているということで、市民の方が実際どれだけ文化財に触れているかの割合がもし分かれば、そこから意見を吸い上げて周遊性などに着眼したときにどういった施策がとれるのかというのも一つの着眼点かと思う。
事務局(回答)	博物館でアンケートをとったりはしているが、全体の市民や市外の方の考え方までのデータは現在取っていない。
委 員(意見)	更級ルネッサンスという団体が自主的に施設を巡回している取組が新聞でも取り上げられているが、そのような活動の把握は都市計画課か、観光課、文化課で、自主的な市民団体の活動が把握できればいいと思うが、どこで把握しているのか。
委 員(回答)	日本遺産に関して、日本遺産推進協議会という団体で色々な事業を展開しており、その中にも更級ルネッサンスの方も構成員で入っており、日本遺産に絡めた事業やイベントをやる際に、協議会の事務局は観光課でやってるので、そこでのかかわりはあるが、それ以外の事業については把握ができないない。
委 員(意見)	前の委員会でも市民の自主的な活動と市の取組みの連携という話が出た。連携することで、構成文化財を地域住民が地域の宝として自覚することの認識も変わってくると思う。 松田邸の博物館の活動は文化課で把握しているのか。
事務局(回答)	歴史文化財センターで把握をしている。
委 員(意見)	松田邸は構成文化財の中では中核的な施設で、事業の中でも日本遺産や大頭祭と関係し、観光関係全般に関係があるが、関係する団体から委員を出して運営協議会を開いて年間計画を作りながら松田邸の博物館の活動を計画していくことはできないか。
事務局(回答)	博物館条例で博物館協議会を設置することができるという規定があるが、条例の適用を受ける施設としては、松田邸の他に、森将軍塚古墳館、さらしなの里歴史資料館の3つがあり、現在協議会の設置はないが、設置することになれば、3つの施設を総合的に把握し事業調整について協議をするようになるかと思う。
委 員(意見)	先ほど話が出た巡回バスの活用や自転車で回ることについても議論ができるようになる。
委 員(意見)	稲荷山の課題はどんなところか。
委 員(意見)	規模が大きいので、一度に沢山はできない。修理と修景を増やしていくかないと見た目が整備されてきたのは分からない。
	松田家などの紹介に、例えばユーチューブでユーチューバーが扱ってくれ

- ないか。そこから興味を持つこともあるのでは。
- 伊那市の文化財審議会で、川虫、ざざむしという昆虫食を文化財にしたらどうか議論したときに、ユーチューブでどう扱っているのか見たら、地元の川で川虫をとて煎って食べておいしいと20代の学生がやっていたが若い子は見るだろうと思うので、きっかけになるような仕組みも興味のある人がいたらやってみてはどうか。
- 委 員(意見)
- 重伝建は127地区あり、他に行くと結構整備されているが、稻荷山はまだ始まったばかりで、件数もとても多く距離も長いので、直していくのもお金がかかる。戦略的にポイントを直していくと街並みも変わっていく。戦略として事業の実施計画を立てる必要がある。
- 稻荷山には地元住民が主体となり、保全活動や啓発活動をしているか。
- 委 員(意見)
- 従来の活動を継承しているだけで新規にはあまりない。
- 委 員(意見)
- まだ街並みを保全して将来に向けて磨き上げていく体制や地盤が整っていない気がする。市民活動の役割、行政の役割を振り返ることが必要。
- 委 員(意見)
- 修理箇所と修景箇所が29件あればかなりの件数になるので、まとまっていればかなりの効果があると思うが、範囲が広いとはいえ、修理や修景の意味づけや広報活動、市報への掲載などはどのように行っているか。
- 事務局(回答)
- 平成28年度から今年度まで、修理29件、修景5件報告しているが、事業自体は平成27年度から開始しており、稻荷山の建物の規模が大きく、単年度で修理が完了しないものもある。今年度末まで修理が完了する見込みの建物は17棟にとどまっている。重伝建地区全体で191棟の伝統的建造物があるが、1割に手が届くかどうか。来年度以降の修理、修景の相談を受けているのが12件ある。その中で設計士を介して、修理の計画を立案するが、市の予算や国の補助金の関係で、修理に着手できるものが年間3件から4件というのが現状。修理した建物の広報については、現在手が付けられていないので、市報や回覧板などで周知したい。
- 委 員(意見)
- 191棟のうち、17棟で1割だけしか完了していないこともほとんど知られていない。重伝建の保存事業について広報活動を大幅に強化してもらいたいのが委員の共通するところである。
- 12件の申請についても、ポイントを決めた戦略的な実施計画を作つて事業に載せてもらうことと、守る会などの自主的な市民団体の活動を推進してもらいたい。
- 委 員(意見)
- 市民運動の方で、重伝建が10周年なので何かイベントやらないかという人はいるが、自主的にやろうという人がいない。現在、全国で129重伝建が認定されており、稻荷山は109番目に認定された。稻荷山は奇麗になったらしい場所になる。
- 委 員(意見)
- 稻荷山は他の重伝建と比べて整備が途中なので、もうちょっと時間をおいてから見に来てもらえたと言っている。

- 委 員(意見) 電柱などもあるので歩きにくいので、歩道を作つて何かできると素晴らしいと思う。
- 委 員(意見) 千曲市は重伝建と重要文化的景観があり、どちらも指定されているのは全国でも数か所だけという私たちがその重要性を認識して、もっと宣伝していく必要がある。
- 委 員(意見) 10ページの旧高村邸の塀のある部分が今は分譲地になっているが、現代の建物には合わないから、指導する権限はないのか。
- 事務局(回答) 旧高村邸の塀の西側の分譲されている部分については、重伝建の選定区域に入っているので、建築にあたっては、外観を歴史的なまちなみに合わせてもらう条件が付く地域になる。具体的な建築の情報はまだ入っていない。
- 委 員(意見) 以前は高村邸の屋敷があったが、特定物件として所有者の同意が得られず、業者にわたって建物を取り壊し分譲されたが、塀の部分は地元の有志が塀だけでもと買い取つて修理・修景をした。
- 委 員(意見) 棚田整備委員でもあるので、そちらでも担い手の問題とか道路の整備とか色々な意見が出たが、日本遺産に認定されたのは耕作者がいて景観が維持されていることを認識する必要がある。
- 委 員(意見) ビューポイントの整備をしているが、棚田が見えて、八幡が見えて、武水別神社が見えて、稻荷山が見える素晴らしい景観だが、そこへ行くとなると利便性、交通の整備が大事になってくる。
- 委 員(意見) 棚田について、輪島でも棚田オーナー制度をやつているが、全国的に認知度のある人がオーナーになつてゐた。話題のある人にオーナーになつてもらうことで認知度を高める方法もある。
- 委 員(意見) 田植えや稻刈りを祭りとして地域で出来れば活性化につながると思う。
- 戸倉上山田温泉について、以前、中心市街地活性化協議会で屋代駅前、戸倉駅周辺、戸倉上山田温泉の3ヶ所で協議をしたことがあり、うまく進まなかつたが、個人的には戸倉上山田温泉の活性化が一番可能性があると話した。団体など利害が一致せず、方向性が一つにならないので、それを乗り越えて創造していくことが必要。現在、八十二銀行や観光局、温泉会社でバックアップする活動がでてきつてるので、新たなまちづくりの方向性ができれば。
- 委 員(意見) あんずの里については、作る担い手が一番の課題。最近は天候に製品が左右されているが儲からないということで、あんずの木がぶどうになつたりしているが、マスコミの報道でも松代の東条の方がクローズアップされてきつてゐる。20年、30年先にあんずの里がどうなつてゐるか危惧している。早めに手を打つていく必要がある。
- 委 員(意見) 名月会でオーナー制度を行つており、オーナーは多いが、受け入れる側が高齢になつてきつてゐる。稻刈りの時には味噌汁をふるまつたりしてゐるが、

委 員(意見)	受け入れ側の手が足りないので、イベントなども大規模なものはできない。
事務局(回答)	そういったことは、事務局の方でも把握しているのか。
委 員(意見)	扱い手の育成が課題になっているということで、計画に基づいた扱い手育成の事業もしていかないといけないことは現実として捉えている。
委 員(意見)	森将軍塚古墳は全国で最初に前方後円墳として修復されたもので、いかに利用して多くの方に来てもらうか難しい問題だとは思うが、特色について情報発信でうまく行っていくことが大事。
委 員(意見)	将来の交流人口の増加のためには整備の内容・速度が大事になる。
事務局(回答)	長楽寺の月見殿の茅葺屋根の葺き替えを行ったが、費用の関係で苦しんだ。計画的に行わなければ文化財は維持できない。
委 員(意見)	21ページの住民評価の関係で、表を見ると令和5年から令和6年では順位が下がってしまっているので、計画策定時に比べてどうだったかという形に資料の差し替えが出来ないか。
事務局(回答)	計画期間の10年間での評価ということで、10年通してみたら上がってきてるという形に表を差し替える。
委 員(意見)	1期計画での10年間の成果について、広報活動を行うのはどの部署で行うのか。
事務局(回答)	評価シートについては、今回いただいた意見もまとめたものを都市計画課の方でホームページ等で公開していく。
委 員(意見)	10年間の成果の広報活動は都市計画課、文化課、観光課でやるのか。市民には広報をしないと理解できない。
事務局(回答)	第2期計画を来年度公開する際に、第1期計画でどのような事業を行ってきたかということも広報ていきたい。
委 員(意見)	市民へ10年間の活動の成果の広報活動を強化していただきたいと思う。
委 員(意見)	7ページの波及効果シートと最終評価の住民評価では同じことを言っているように思うが、年度が違うものを載せているのは理由があるか。また、長野市の最終評価は観光客の変化を波及効果として捉えているが、その辺は参考にしていないのか。
事務局(回答)	観光客の利用者数について波及効果にすると、途中でコロナ禍があり、最新の数字も計画当初よりも減ってしまうということになるため、市民満足度の数字を利用した。
	住民評価については、他の自治体で色々な形でまとめているが、今回参考にした岐阜県の高山市では、住民満足度の向上を効果として挙げており、地域に住んでいる住民が景色や風景に誇りを持つことが市外、県外からの誘客、さらには国外からのインバウンドなどに繋がり、地域の活性化にも繋がっていけばということで、市民の満足度に重点を置いて作成をした。

(2)千曲市歴史的風致維持向上計画(第2期)(案)について

事務局より説明

[質疑応答]

委 員(意見)

千曲市は街並みがあり、重伝建、重要文化的景観、古墳、温泉もあり、大変恵まれているので、観光資源が一杯あるのでうまくリンクさせて活用できればいい。

委 員(意見)

新規事業は戸倉地区が目玉になるので、戸倉地域がどのような宝を持っているのか市民向けに広報活動を活発に行ってもらいたい。

人口が善光寺平から南の方へ動いている。長野県の弥生文化の発祥が更埴である。更級埴科地区が弥生文化発祥の地で、古墳文化発祥の地も埴科、郡衙が最初に設置されたのも更級更埴。住民も増えている。千曲川の河川敷の活用が戸倉地区で始まる。歴史的風致とそのような事業が重なってくることが市民に知られていないことが千曲の弱点。地域の人が自分の宝を自覚していない。広報活動を重視してやってもらいたい。

(3)今後のスケジュールについて

事務局より説明

[意見等なし]

[原案のとおり承認]

4 そ の 他

[委員の改選について]

事務局(報告)

[次回の千曲市歴史的風致維持向上協議会の開催時期について]

事務局(連絡) 令和8年1月開催予定。

5 閉 会

都市計画課長